

3号機核燃料搬出完了

福島第1プールの566体 2年かけ

東京電力は28日、福島第1原発3号機の使用済み燃料プールから核燃料計566体を搬出する作業を完了したと発表しました。炉心と発着しました。炉心溶解（メルトダウン）を起した1〜3号機のうち、プール内の核燃料の取り出しが終わるのは初めて。

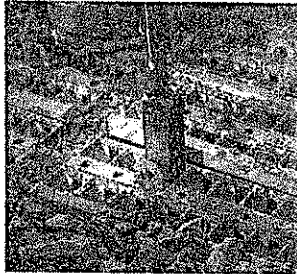
遠隔で機械を操作し、専用容器に収納した最後の6体を、28日に敷地内の共用プールと呼ばれる貯蔵施設に

移送しました。放射性物質が拡散しないように、建屋上部を覆う大型カバーを設置して作業しました。

3号機の燃料搬出は2014年末にも開始する予定でしたが、建屋の水素爆発によるがれきの撤去が難航し、プール内に重量400キの機器が落下する事故も発生。クレーンの異常やケーブルの腐食などトラブルが多発し、取り出し開始は4

年以上ずれ込みました。19年4月の開始後も、燃料をつかむハンドル部の変形への対策に時間をかけました。使用済み燃料プールからの核燃料搬出は、14年12月に4号機の1533体が完了。建屋上部にがれきなどが散

福島第1原発3号機の使用済み燃料プールから取り出される、最後の核燃料（28日）（東京電力提供）



乱している1号機、建屋内の放射線量が特に高い2号機を含め、東電は31年末までに全ての取り出しを目指すとしています。